

榛原総合病院の 複合がん検診会場 での任意検査(オプション)のご案内

検査内容	対象者	申し込み	会場 受付時間	結果
肝炎ウイルス検診	検査希望で 検査条件に 適合する方	事前予約なし 当日会場受付 で申し込み 簡単な問診票 に記入してい たきます。	榛原総合病院 が催す 複合がん検診 会場(別紙) 午前8時30分 から 午前11時まで	郵送で結果 通知します。 (約2~3 週間後)
前立腺PSA検査				
ピロリ菌抗体検査				
ペプシノゲン検査				
ABC検診				

※おつりのないようお願いします。

榛原総合病院 健診センター

**肝炎ウイルス検査**

食事制限なしの血液(採血)検査です。

肝臓は、人の臓器の中でもっとも大きく、重い臓器です。そこでは、栄養分の代謝・薬物の解毒・胆汁の産出など重要な働きをしています。肝炎になると、細胞に炎症が起こり、肝細胞が壊され、徐々に機能が失われていきます。肝炎の原因はウイルス、アルコール、自己免疫等がありますが、日本では肝炎ウイルスに起因するものが8割以上を占め、さらに肝がんの8割はC型肝炎から移行しているという統計結果もあります。感染者は、B型が110万人~140万人、C型が190万人~230万人いると推定されます。感染時期が明確でないことや自覚症状がないことが多いため、適切な時期に治療を受ける機会がなく、本人が気づかないうちに肝硬変や肝がんへ移行する感染者が多く存在することが問題となっています。

B型、C型肝炎ウイルスは血液・体液を介して感染します。B型肝炎ウイルスが免疫機能の正常な成人に感染した場合は、ほとんどが急性肝炎の形態を取り治癒します。しかし、健康人が感染しても自覚症状がなく慢性化しやすいB型肝炎(ジェノタイプA：欧米由来)が、特に性的接触等により増加しています。C型肝炎は輸血による感染が非常に問題となっていました。現在では輸血による感染はほとんどありません。性的接触による感染も少ないのですが、覚せい剤等の注射の回し打ち、入れ墨(タトゥー)等の針の使いまわし、不衛生なピアス処理などにより感染します。検査を受けたことのない方は、この機会にぜひ一度検査を受けましょう。

[対象者]

- ① 本年3月31日現在で40、45、50、55、60歳になられた方で、今までに牧之原市の検診で肝炎ウイルス検査を受けたことがない方は無料で検査できます。対象の方には専用の受診券をお送りします。
- ② 40歳以上になられる無料対象外の方で、今までに市の検診で肝炎ウイルス検査を受けたことがなく検査を希望する方は、1,300円(税込)の検査料になります。
- ③ 上記以外の方で検査を希望する方は、3,520円(税込)で検査できます。

**前立腺PSA検査**

男性のみ食事制限なしの血液(採血)検査です。 料金 1,980円(税込)

PSAは前立腺疾患由来の物質ではなく、前立腺自体から分泌されますので、健常者でも多少血液中に存在します。前立腺がんのマーカーとして用いられますが、加齢にともなって増えることと、前立腺に炎症が有る場合は、がんでもなくとも高値となることがあります。しかし、PSA検査は、前立腺がんを発見する最初の検査として有用です。血液検査だけで測定できるので男性の皆様、50歳を過ぎたら前立腺がんの検査をお勧めします。

PSA値は、高ければ高いほど前立腺がんである確立も高くなってきますが、完璧な検査とはいえず、結果が陽性だからといって必ずがんがあるわけではなく、反対に陰性だからといって完全にがんが否定できるわけではありません。気になる症状のある方は、医療機関にご相談ください。

## ピロリ菌抗体検査

食事制限なしの血液(採血)検査です。

料金 1,100円 (税込)

ピロリ菌は胃の中に好んで住みつき、胃の壁を傷つけ、炎症を起こしやすくする細菌です。炎症は、粘膜をさらに弱くし、胃炎や胃・十二指腸潰瘍になります。こうした胃粘膜刺激の繰り返しにより胃がんになる場合があります。(胃がんになった人を調べると、実に99%がピロリ菌に感染していることが分かっています。)

ピロリ菌は子供の頃に感染し、感染者は抵抗力として菌に対する抗体をつくりますが、一度感染すると多くの場合、除菌しない限り胃の中に棲みつづけます。ピロリ菌診断には迅速ウレアーゼ試験、鏡検法、培養法、尿素呼気試験などがありますが、今回は抗ヘリコバクターピロリIgG抗体(国内株)検査です。血液中に存在する抗体の有無を調べる方法で、菌自体の有無を調べる検査ではありませんが、感染のスクリーニングおよび除菌治療の効果判定として有用とされています。ただし、除菌者にとって、除菌の状態を確認することはできません。

## ペプシノゲン検査

食事制限なしの血液(採血)検査です。

料金 2,860円 (税込)

一般的な胃がんは胃の萎縮が進む程発生しやすいことがわかっています。

血清ペプシノゲン値は、胃全体の萎縮の進行度がわかる検査値です。すなわち、胃がん発生の危険のある人を絞り込めます。ただ、あくまでも胃の萎縮のマーカーであり、胃がんの特異的マーカーではありません。つまり、結果が陰性でも必ずしも「癌がない」と断定できないということです。また、萎縮と関係ない未分化型腺がんや、進行がんが見逃される欠点があります。検査の対象とならない人もいます。下記注意事項を参照してください。


## A B C 検診

上2つの検査を組み合わせた、  
食事制限なしの血液(採血)検査です。

料金 3,960円 (税込)

A B C 検診は「ピロリ菌感染の有無を調べる検査」(ピロリ菌抗体検査)と「胃の萎縮を調べる検査」(ペプシノゲン検査)を組み合わせ胃がんになりやすいか否かをリスク(危険度)分類するものです。A B C 検診の実施は、測定方法や基準値の変更があるため、非除菌者ならば、5年に1度が望ましいと思われます。

また、下記注意事項も参照してください。

	A群	B群	C群	D群
ピロリ菌抗体	陰性	陽性	陽性	陰性
ペプシノゲン値	陰性	陰性	陽性	陽性
胃粘膜の状態	健康	少し弱っている	かなり弱っている	非常に弱っている
胃がん危険度	低			高

※D群判定について、胃粘膜の萎縮が高度に進行すると、ピロリ菌抗体が陰性となることがあります。これはピロリ菌の自然排菌の他、加齢などにより抗体価が低下した場合が考えられます。よって、内視鏡検査を追加実施すべきです。

※ピロリ菌除菌後の方は、Eタイプ(除菌群)として、定期的に内視鏡検査を受けることを推奨しています。

(A B C 検診対象外になります)

### 注意事項

以下の場合には、正しい結果が得られない可能性があります。

1. 明らかな上部消化器症状のある方
2. 食道、胃、十二指腸疾患で治療中の方
3. 胃酸分泌抑制剤(プロトンポンプ阻害剤)服用中もしくは2カ月以内に服用していた方
4. 胃切除をされた方
5. 腎不全の方(目安として、クレアチニン3mg/dl以上)
6. ピロリ菌の除菌治療を受けた方